

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成30年5月17日(2018.5.17)

【公表番号】特表2017-511361(P2017-511361A)

【公表日】平成29年4月20日(2017.4.20)

【年通号数】公開・登録公報2017-016

【出願番号】特願2016-562778(P2016-562778)

【国際特許分類】

C 07 D 487/04	(2006.01)
A 61 P 43/00	(2006.01)
A 61 P 35/00	(2006.01)
A 61 P 29/00	(2006.01)
A 61 P 37/02	(2006.01)
A 61 P 25/28	(2006.01)
A 61 P 3/10	(2006.01)
A 61 P 3/04	(2006.01)
A 61 P 25/00	(2006.01)
A 61 P 9/00	(2006.01)
A 61 K 31/4985	(2006.01)

【F I】

C 07 D 487/04	1 4 7
A 61 P 43/00	1 1 1
A 61 P 35/00	
A 61 P 29/00	
A 61 P 37/02	
A 61 P 25/28	
A 61 P 3/10	
A 61 P 3/04	
A 61 P 25/00	
A 61 P 9/00	
A 61 P 43/00	
A 61 K 31/4985	

【手続補正書】

【提出日】平成30年3月30日(2018.3.30)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

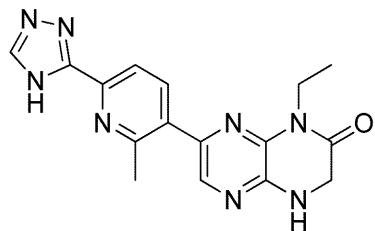
【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

6.18±0.2°、21.74±0.2°、及び26.7±0.2°の2にピークを含むX線粉末回折パターンを有する、式(I)の化合物又はその互変異性体の結晶形態:

## 【化1】



(I)

。

## 【請求項2】

$12.34 \pm 0.2^\circ$ 、 $22.5 \pm 0.2^\circ$ 、及び $23.42 \pm 0.2^\circ$ の2にピークをさらに含むX線粉末回折パターンを有する、請求項1記載の結晶形態。

## 【請求項3】

25から300に加熱したときに前記結晶形態の全質量のうちの15.5%の全質量損失を含む熱重量分析サーモグラムを有する、請求項1記載の結晶形態。

## 【請求項4】

25から300に加熱したときに140で最大値を有する90～185での吸熱を含む単一示差熱分析サーモグラムを有する、請求項1記載の結晶形態。

## 【請求項5】

前記単一示差熱分析サーモグラムが264で最大値を有する240～285の吸熱をさらに含む、請求項4記載の結晶形態。

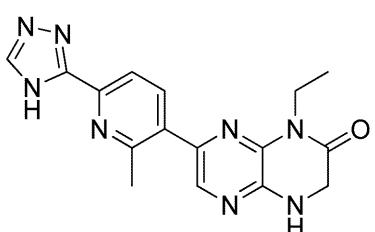
## 【請求項6】

少なくとも90%純粹である、請求項1記載の結晶形態。

## 【請求項7】

$3.5 \pm 0.2^\circ$ 、 $9.26 \pm 0.2^\circ$ 、及び $18.62 \pm 0.2^\circ$ の2にピークを含むX線粉末回折パターンを有する、式(I)の化合物又はその互変異性体の結晶形態：

## 【化2】



(I)

。

## 【請求項8】

$7.06 \pm 0.2^\circ$ 、 $12.66 \pm 0.2^\circ$ 、及び $15.3 \pm 0.2^\circ$ の2にピークをさらに含むX線粉末回折パターンを有する、請求項7記載の結晶形態。

## 【請求項9】

25から300に加熱したときに前記結晶形態の全質量のうちの12.8%の全質量損失を含む熱重量分析サーモグラムを有する、請求項7記載の結晶形態。

## 【請求項10】

25から300に加熱したときに160で最大値を有する110～175での吸熱を含む単一示差熱分析サーモグラムを有する、請求項7記載の結晶形態。

## 【請求項11】

前記単一示差熱分析サーモグラムが254で最大値を有する225～275の吸熱をさら

に含む、請求項10記載の結晶形態。

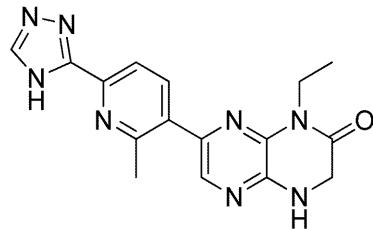
【請求項12】

少なくとも90%純粋である、請求項7記載の結晶形態。

【請求項13】

$10.66 \pm 0.2^\circ$ 、 $21.94 \pm 0.2^\circ$ 、及び $26.26 \pm 0.2^\circ$ の2にピークを含むX線粉末回折パターンを有する、式(I)の化合物又はその互変異性体の結晶形態：

【化3】



(I)

。

【請求項14】

$10.14 \pm 0.2^\circ$ 、 $18.1 \pm 0.2^\circ$ 、及び $22.66 \pm 0.2^\circ$ の2にピークをさらに含むX線粉末回折パターンを有する、請求項13記載の結晶形態。

【請求項15】

25から300に加熱したときに前記結晶形態の全質量のうちの16.4%の全質量損失を含む熱重量分析サーモグラムを有する、請求項13記載の結晶形態。

【請求項16】

25から300に加熱したときに140で最大値を有する100～175での吸熱を含む単一示差熱分析サーモグラムを有する、請求項13記載の結晶形態。

【請求項17】

前記単一示差熱分析サーモグラムが258で最大値を有する235～275の吸熱をさらに含む、請求項16記載の結晶形態。

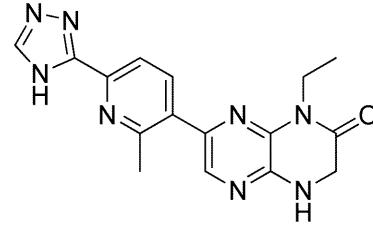
【請求項18】

少なくとも90%純粋である、請求項13記載の結晶形態。

【請求項19】

$9.26 \pm 0.2^\circ$ 、 $11.7 \pm 0.2^\circ$ 、及び $26.18 \pm 0.2^\circ$ の2にピークを含むX線粉末回折パターンを有する、式(I)の化合物又はその互変異性体の結晶形態：

【化4】



(I)

。

【請求項20】

$7.46 \pm 0.2^\circ$ 、 $24.26 \pm 0.2^\circ$ 、及び $24.94 \pm 0.2^\circ$ の2にピークをさらに含むX線粉末回折パターンを有する、請求項19記載の結晶形態。

【請求項21】

25から300に加熱したときに前記結晶形態の全質量のうちの9.4%の全質量損失を含

む熱重量分析サーモグラムを有する、請求項19記載の結晶形態。

【請求項22】

25 から300 に加熱したときに80 で最大値を有する50 ~ 140 での吸熱を含む单一示差熱分析サーモグラムを有する、請求項19記載の結晶形態。

【請求項23】

前記单一示差熱分析サーモグラムが181 で最大値を有する160 ~ 200 の発熱をさらに含む、請求項22記載の結晶形態。

【請求項24】

前記单一示差熱分析サーモグラムが251 で最大値を有する225 ~ 275 の吸熱をさらに含む、請求項23記載の結晶形態。

【請求項25】

少なくとも90%純粹である、請求項19記載の結晶形態。